

ザ・リッツ・カールトン京都 総支配人に ヴィディヤ・サガールが就任

ザ・リッツ・カールトン京都（所在地：京都市中京区鴨川二条大橋畔）は、2026年9月1日付で、ヴィディヤ・サガール（Vidya Sagar）が総支配人に就任しましたことをお知らせいたします。



サガールは、マリオット・インターナショナルをはじめ、複数の国と地域のラグジュアリーホテルで要職を歴任し、豊富な経験を積んできました。ホテル運営に加え、ゲスト体験の向上や組織づくりに幅広い知見を有しています。2019年に、タイ・クラビの「プーレイ・ベイ・ア・リッツ・カールトン・リザーブ」にオペレーションズ・ディレクターとして着任し、2022年に総支配人に就任。事業成長とゲスト満足度の向上に貢献しました。在任中、同リゾートはミシュランキーの最高評価である「3ミシュランキー」を獲得したほか、『コンデナスト・トラベラー』『フォーブス・トラベルガイド Edge List』『ロブ・レポート』など、世界的なメディアからも高い評価を得ました。

こうした実績が認められ、2025年には「Luxury General Manager of the Year - APEC」「Global General Manager of the Year - Ritz-Carlton Reserve Brand」「Stelliers General Manager of the Year」を受賞しました。サガールは人材育成にも力を注ぎ、同リゾートにバトラー・アカデミーを設立。また、女性を対象としたホスピタリティおよびライフスキル研修を通じて、地域における就業機会の創出にも取り組んできました。



「歴史と文化が息づく京都で、ザ・リッツ・カールトン京都の総支配人を務める機会をいただき、大変光栄に思います。素晴らしい紳士淑女とともに、この地ならではの文化と心を大切にしながら、世界中のお客様の記憶に残る体験をお届けして参ります。また、地域の皆様とのつながりを一層深め、ホテルの新たな章を築いていくことを楽しみにしています」—ザ・リッツ・カールトン京都 総支配人 ヴィディヤ・サガル

サガルは今後、ホテル運営全般を統括し、ブランドを象徴するサービスのさらなる向上、人材育成、地域との連携強化を通じて、ザ・リッツ・カールトン京都の次なる成長を牽引してまいります。

ザ・リッツ・カールトン京都について

京都の北から南へ流れる鴨川のほとり、東山三十六峰を一望できる最高のロケーションに建つ「ザ・リッツ・カールトン京都」は、祇園や河原町、先斗町など繁華街に近く、観光やビジネスにも便利なアーバンリゾートです。日本の伝統と現代的な欧米様式の融合を図りながら、歴史ある周辺環境にも調和する外観デザイン。京都の伝統・文化のエッセンスが散りばめられたラグジュアリーな空間で、ここでしか味わえない上質な時間を提供します。総客室数は 134 室。客室平均面積は 50 平米と京都市内最高水準の広さを誇り、レストランやバー、宴会場、スパをご用意しています。URL: <http://ritzcarlton-kyoto.jp>

9年連続 5つ星獲得 『フォーブス・トラベルガイド 2026』

ザ・リッツ・カールトン京都 お問い合わせ先

遠山絵里

Email : eri.toyama@ritzcarlton.com